
第6回 昭島市総合基本計画審議会 第2部会

議事要旨

[日 時] 平成22年7月14日(水) 19:00~20:30

[場 所] 昭島市役所 3階 庁議室

[出席者]

1 委員

石崎忠司会長、平畠文興副会長、稻員とよの委員、岡田明恵委員、中野久史委員、長谷川祐司委員、福田晃委員、矢崎まゆみ委員

(欠席者) 川元英貴委員、竹村茂己委員

2 事務局

日下企画部長、佐藤総合基本計画担当主幹、柳主査

3 コンサルタント会社

田中

[日 程]

1 基本計画素案

第7章 計画の実現のために

2 その他

[配布資料]

・第3章 計画の実現のために

[議事要旨]

議事録の確認

前回の議事録について確認を行い了承を得た。なお、今後気付いた点等があれば事務局に連絡することとした。

1 基本計画案

【説明】

事務局より、資料に基づき「第7章 計画の実現のために」の説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(1) 情報の共有と協働の推進

(市民の声の反映について)

市民意識調査(2ページの現状の4つ目)について、前年度との比較で「反映している」「反映していない」のどちらも割合が減っているが、「反映している」と回答した人は横ばいなのか。

【岡田委員】

「よく分からぬ」との回答が多くなり、解釈が難しいところである。「反映している」との回答は、市政について一定の評価があるということ、「反映していない」との回答については、今後の課題と認識している。【事務局】

市政が市民の声を反映していると思う市民の割合を増やそうとの政策指標(4ページ)があるが、そのための課題や政策の項目が少ないのでないか。【岡田委員】

市について市民の方々に知って頂きたい、また市も市民がどの様な考え方を持っているのかの情報を頂きたいというように、情報を共有化できる環境を作っていくことがこの点に対する第1歩と考えている。また、最近では市民が自動的に行動を起こしていることが数多くあるので、その芽を育てていくとの意味で協働と記載し、この2つを掲げている。【事務局】

「反映している」と答えた方が20.4%、「反映していない」と答えた方が21.2%のことだが、残りの50%はどう理解したらいいか。政策指標の現状値で、「反映している」と答えた方のみの数値を記載すると、その他全ての方が「反映していない」との回答だったと誤解を招かざるを得ない。残りの50%についてはどの様な結果となっているのか、それについての説明を加えるべきである。【松本部会長】

「よく分からぬ」が半分、あとは「無回答」の方と「その他」については把握していない。これらの割合部分に関しては、情報提供をしていきたい。また、「反映していない」との回答については、どの様なことを行えば「反映している」と感じて頂けるのか意見交換を行う機会を増やし、施策を展開していきたい。【事務局】

反映しているのかいないのかの判断が市民にとって難しい。「よく分からぬ」との意見及び割合が50%あるという結果も不自然ではない。【松本部会長】

50%の説明を加えた方がいい。【福田委員】

現状を踏まえながら、それらについて分かりやすい説明を加え、課題につなげていきたい。【事務局】

(情報提供について)

「情報の共有化」は非常に難しく、一方的な情報提供となりがちであるとともに、やり取りが見えないことで発信している側にもなかなか分かりづらいものである。どの様なことをい、どの様な声が出たかというのを広報以外の身近なところでも伝えていく施策も必要である。【長谷川委員】

市長に頂いた意見の処理結果、オンブズパーソン制度の結果、パブリックコメント等も常時公表している。ただその様なことが公表されていることが市民にはなかなか広まらない現状があるので、広報の仕方や情報提供の方法について検討していきたい。【事務局】

(協働について)

「協働による取組みの導入について積極的に検討していきます」(3ページの基本施策 「協働によるまちづくり」 3つ目の)とあるが、協働による取組みとは具体的にどの様なことか。【松本部会長】

協働とは非常に幅広い概念であり、一言ではなかなか言い表せない。自分が活動を行うことでより良いまちを創っていくとの考えに基づいたあらゆる活動を指す。【事務局】

(政策指標について)

政策指標(4ページ)について、目標値が具体的に示されており、後に目標値が達成されているか否かが明確に分かると思うが、良いのか。【松本部会長】

20%を市の目標として掲げている。新しく立ち上げる審議会については必ず2割の公募による委員を取り入れ、審議会を運営していくと力を注いでいる。【事務局】

基本方針として、公募による委員の方を誘引することについては強調して掲げ、協働を趣旨とすることは良い。【松本部会長】

(2) 地方分権と広域的な連携・協力

(施策の目指す姿について)

「施策の目指す姿」について、よく分からないという印象を受けた。これだと地方分権について具体的にどうするのかが市民には浮かばないのではないか。市民は何を汲み取れば良いのか。【福田委員】】

自分達のまちのことは自分達で決め、自分達の行動によって課題を解決していくとの考え方の中で、国からの押しつけでなく市民が主体的に判断をし、それをまちづくりにつなげていくということを汲み取って頂きたい。【事務局】

前半の地方分権、後半の広域的な連携・協力という2つのキーワードに分かれしており、今までの様に昭島市単独で全てを解決するのではなく、課題によっては周辺地域と一緒に取り組んでいくことが今後求められている。昭島市という小さな都市が1つの政府として自分達の進むべき方向を決め、財源を保ちながら自己判断をする地方政府を目指そうとの考えが、地方分権である。市民の方には、ある程度の基礎知識がなければ、具体的なイメージが沸かないかもしれない。【事務局】

(政策指標について)

市民と市がパートナーとして組むとのことは明確だが、政策指標では別の項目を入れてもいいのではないか。現状と課題の内容に、より一致した指標があるのではないか。【松本部会長】地方分権についての指標を自治体で掲げることが難しく、また地方分権ははじまつばかりであり、方向性が示されたものの形としてはまだ不確定である。地方分権を進めるためには、それに相応しい実力を有しなければならないとの観点から、研修などを受けながら自治体の職員としてのレベルを上げていかなければならぬとの考え方で、この指標を採用した。【事務局】

基本施策 及び についてはよく理解できたが、「地方分権時代のまちづくり」についてはもう少し政策指標等での記述があつてもいい。【松本部会長】

権限の話であり、昭島市としての指標にはならない現状があり、難しかったところもある。政策指標について、全体を通して再検討を行いたい。【事務局】

(国内交流について)

「広域的な交流と連携が進んでいます」(5 ページ 施策の目指す姿)との記載について、総合的な事務処理を図っているとのことだが、ここで岩手県岩泉町や群馬県館林市を挙げている趣旨を「広域的な交流と連携」の観点から教えて欲しい。【岡田委員】

共同で事業を行うことはもちろんだが、様々な地域と交流を深めて互いに刺激をし合おうとの考え方もある。岩泉町や館林市とは、職員を交換したり夏休みに子ども達のホームステイ交流を行ったりする等の文化的な交流を図っており、その大切さを掲げるためにこの様な記載をした。【事務局】

「小学生国内交流事業の参加者数 15 人」(6 ページ 政策指標)とあるが、これが岩泉町や館林市の数値となるのか。【岡田委員】

岩泉町との夏休みにおける交流人数となる。【事務局】

小学生国内交流事業の参加者数の目標値が設定されているが、岩泉町や館林市との国内交流を今後更に深めるのか。それとも新たに他都市との交流も深めるとの意味か。【稻員委員】

両者の意味を持つ。館林市とは小学生の交流事業は行っていないが、岩泉町との交流においては、数をなかなか増やせないとの現状がある。岩泉町はもちろん、他都市との交流も含めての目標値となる。【事務局】

岩泉町とは、今年から職員の交換交流も行っている。少子化の影響で岩泉町の子ど�数が減っており、ホームステイによる交流ではその受け入れ体制が縮小している現状があるが、可能な限り拡大していく方針である。【事務局】

この分野は行政的な色彩が強く、市民にとっては非常に分かりにくい。他都市との交流を通して昭島市を再認識していくよう、より積極的に掲げる余地がある。【稻員委員】

体験学習を通じた青少年の教育の場として極めて重要な施策である。様々な視点で交流事業を開いていきたい。【事務局】

他都市の市民と話をすると昭島らしさを再認識できることもあるので、この分野で国内交流が位置付けられることは良いことだが、何故この分野で位置付けられているのかを明確に示すべきである。【稻員委員】

指標はある意味では評価が難しく、数値化できないものはあまり意味を有さない。よって国内交流の生徒数が増えたからといって、昭島市として地方分権と広域的な連携・協力が達成されたか

というと、それは分からない。【事務局】

間接的な指標ではあるが、より市民の立場に近いメルクマールとなっていて面白い。【稻員委員】どの指標をどこで使うかは、今後更に検討していかなければならない。この政策指標は施策と合致していないかもしれないが、この様なもののしか数値化できない現状もある。【事務局】

(3) 自主自立による行財政運営

(課題の記述について)

課題の 3 つの記述(7 ページ)は、目的はそれぞれあるものの、大きい括りでは同じ意味である。

あえて 3 つに分けて記述する必要があるのか。【長谷川委員】

それぞれの書き込みの方向性は 1 つだが、その中でも課題となるポイントは市民との協働、まちづくりに対する市民の意識、行財政改革の 3 つあるとの考え方から分けて記載している。【事務局】

(健全な行財政運営について)

市から市民への投げかけだけでなく、小さな地方政府をつくるためには市民が自ら活動を行うべきであり、それが健全な財政運営につながっていく。その点の必要性も示すと良い。【平畠副会長】

自治体を経営するとの概念が一般的となつたが、以前はそうでなかった。景気が非常に悪い中で、人件費を中心とした経営コストをいかに減らしていくかが健全な自治体経営における課題となるが、市民サービスは維持していかなければならない。難しい課題ではあるが、両者を追い続けることが行政にとって重要であるとのスタンスで書き込みをしている。【事務局】

(4) 憲章・都市宣言趣旨の推進

(政策指標について)

「73% の市民が現在の暮らしに満足している」(11 ページ 政策指標)とのことに感心をしたが、もう少しその概要を知りたい。【松本部会長】

「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の 5 つの項目に分けた。市政に満足しているとの指標ではないが、日本国民としての暮らしという意味合いでとらえている可能性はある。今後の社会情勢によっては当然低下することも考えられる。その際に市としてどうサポートできるかも 1 つの観点として挙げられる。また、無作為による 1000 人対象の調査であるので、対象者の年代によってある程度差が生じることもあり得る。【事務局】

前回の調査時より若干高まってきている。ただこれに満足することなく、今後更に高めていくことが行政としての使命である。また経済的な豊かさを満足と捉えるのか、精神的な豊かさを満足と捉えるのか等、対象者の意識や価値観によって違うのでメルクマールが難しい。【事務局】

生まれて以来ずっと嫌でもなく住み続けているということは、満足しているのだろうとの考えで、満足していると回答した。【矢崎委員】

昭島市は川や緑、医療施設やスポーツ施設、ショッピング施設等が整っている。また犯罪も少くなり、住環境も良くなっているので、不動産の価値も非常に高いようである。これらの事も調査結果につながっている。【平畠副会長】

犯罪の少なさはもちろん、交通環境の良さを感じている。【矢崎委員】

豊かな自然環境、充実した施設、交通便の良さ等を市民と市内の企業、行政とが協力して支えていることが、このような満足度を形成しているのだろうと考えており、大変有り難い。【事務局】他都市と比較できる数値があれば、昭島市の数値の高さをより読み取れるので、また他のところでそれを示して欲しい。【松本部会長】

2 その他

次回は8月12日開催予定。